

宇都宮市立富士見小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「携帯電話・スマートフォンやコンピューターの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか」について、肯定割合が73.5%と、国の平均を3.4ポイント上回った。また、「一日当たりどれくらいの時間テレビゲームをしますか(平日)」について、「1時間未満」と回答した割合が27.3%と、国の平均を3.6ポイント上回った。携帯電話やスマートフォンの所持率は高いものの、各家庭で決めた約束事をきちんと守り、節度をもって使用している様子が見えてくる。「スマホ・ケータイ宮子ルール」を活用し、保護者と連携を図りながら、安全意識の向上と安全に配慮した行動実践への意欲を高めさせたい。

○「将来の夢や目標をもっていますか」について、肯定割合が86.4%と、国の平均を6.1ポイント上回った。また、「難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか」について、肯定割合が79.6%と、国の平均を8.7ポイント上回った。自分の目標をもち、それに向かって前向きに取り組む様子が見えてくる。総合的な学習の時間におけるキャリア教育を通して、自分の未来をイメージし、より具体的な目標がもてるよう支援していきたい。

○「算数の勉強は好きですか」について、肯定割合が78.8%と国の平均を11.0ポイント上回った。また、「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」について、肯定割合が87.1%で、国の平均を4.4ポイント上回った。「言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題にどのように解答しましたか」については、「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」と回答した割合が87.9%と、国の平均を8.0ポイント上回っている。引き続き、算数の見方・考え方を働かせる授業を展開したり、自分の思いや考えを表出させるための支援を行ったりして児童の意欲をさらに高めていきたい。

●「国語の勉強は好きですか」について、肯定割合が56.8%と、国の平均を1.6ポイント下回った。また、「学校の授業以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか」について「10分より少ない(全くしないを含む)」と回答した割合が42.4%と、国の割合を3.7ポイント上回った。文章を読むことへの抵抗感がうかがえるので、朝の読書や図書室の利用を奨励したり、新聞記事等を活用した自主学習の工夫を提示したりすることで、文章に向き合う姿勢を醸成するとともに、読む楽しさを実感させていきたい。また、「解答時間は十分でしたか(国語)」について、肯定割合が56.0%と国の平均を14.3ポイント下回った。ある程度のもった量の文章を適度な速さで読む力も身に付けさせたい。

●「5年生までに受けた授業で、コンピューターなどのICT機器をどの程度使用しましたか」について、「月1回以上」と回答した割合が67.5%と、国の平均を7.5ポイント下回った。今年度は、一人に一台ずつ端末が配付されたので、授業の中で活用する機会を積極的に設けて操作に慣れさせるとともに、効果的な活用場面・活用方法について研究を深めていきたい。

宇都宮市立富士見小学校 (第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎基本の確実な定着	・朝の学習時における漢字や計算練習の実施、ステップアップシートの活用	・国語の漢字を書く問題、算数の数と計算の領域ともに、国の正答率を上回っている。
・望ましい学習習慣の確立	・「家庭学習のすすめ」による家庭学習内容の提示と家庭学習強化週間の実施及び家庭との連携協力の強化 ・学年に応じた宿題の出し方の工夫	・「自分で計画を立てて勉強をしている」の項目においては、国の肯定割合を上回っている。 ・「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目においては、学校で目標としている1時間以上の目標に到達している児童が81.9%であった。「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目においては、1時間以上の目標に到達している児童が76.5%であり、平日・休日ともに国の肯定割合を上回っている。
・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善	・各教科の見方・考え方を働かせる教師のコーディネート工夫 ・自分の思いや考えを表出させるための支援 ・多くの児童を参加させ、考えや表現を広げ深める対話的活動の設定 ・学びを実感することのできる振り返りの工夫	「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができる」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」「5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」の項目において、国の肯定割合を上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
教科に関する調査から、基礎的な知識や技能は身に付いていることが分かるが、要点をまとめたり、自分の考えを記述したりする問題になると、無回答も増え、課題が残る。	自分の思いや考えを表出させるための支援	授業時間では、思考する時間を十分に確保し、自分の思いや考えを表出できるようにする。また、自分の言葉で授業のまとめをしたり、自分の考えを振り返って記入したりするなど、大事なポイントを押さえながら短い言葉でまとめるという経験を積み重ねていく。